

英語と日本語によるスピーチコンテスト「特賞」受賞



右 デイツサバンジョン ヨッサワディーさん
(タイ アサンブション大学からの交換学生)
左 ドン メイさん
(アメリカ ノース・キャロライナ州立大学からの交換学生)

11月20日に、神戸(外国)クラブで「第37回神戸市長杯 英語と日本語によるスピーチコンテスト」が行われ、タイからの交換学生、デイツサバンジョン ヨッサワディーさんが「特賞」を受賞しました。
このスピーチコンテストは、国籍や年齢に関係なく、地球社会の現在の共通の課題について、英語と日本語の2か国語で主張するものです。
今年度は7か国31名が応募し、テープ予選で選ばれた10名がファイナリストとして、スピーチを披露しました。関学大からは、ヨッサワディーさんと、ドン メイさんの2名がファイナリストに選出されました。
今年のテーマは「地球市民社会への新たな挑戦―「難民・移民」にどう向き合うか―」です。ヨッサワディーさんは、自身が中国系の移民3世である経験も踏まえ、移民問題についてスピーチをしました。タイ国内で悪いイメージを持たれることの多い移民について、ニュース等をもとに治安悪化や経済悪化につながるものではないことを説明し、「移民問題にもっとポジティブに向き合うべきだ」と主張しました。
ホストファミリーの勧めで、二人はコンテストに応募しました。当日はホストファミリーも家族全員で応援。受賞決定後はみんな嬉しさを分かち合いました。

日本語教育センター通信

第27号

Welcome! 交換学生紹介

ムン ソンホさん
(韓国 慶熙大学からの交換学生)



ムン ソンホさん(韓国 慶熙大学)

今、会計やマーケティングの授業を履修しています。クラスには交換学生が1人しかいないので大変ですが、頑張っています。
関学では日本語パートナーをはじめ、いろいろな人と会えて、日本語を使いながら日本での大学生活を送れることに満足しています。韓国では4年生で、留学するには遅いですが、それで1学期間しか留学できないのですが、1学期だけでも留学することにして、本当に良かったと思っています。

関学に留学するのは2回目です。交換留学前に日本を体験したいと思い、今年の2月に短期プログラムに参加しました。短期プログラムで関学のことを知ったこと、ホームステイ制度があること、から関学にまた留学することを決めました。ホームステイ先では毎日日本語で話す機会もあり、とてもよくしてもらっているのです。本当の家のようになっています。

日本語パートナー紹介

川畑 達寛さん(商学部)

おつかれさまでした!

私は現在、交換学生の会話練習相手をつとめる日本語パートナーをしています。以前から留学生と関わる機会が多く、少しでも彼らの日本語学習の補助ができれば良いなと思い、この秋学期初めて応募しました。
私の韓国人のパートナーはとも日本語が上手で、様々な話題について話します。特に日本と韓国についての話題が多く、お互いに相手の国に興味を持って、日本と韓国でここはどう違うのか、なぜ違うのかなど、日本とは違う文化を知ることができてとても楽しいです。時々、日本について聞かれた時に、自分あまり知らなかったことや、今まで考えたことがなかったこともあり、自分ももっと日本について知らないといけないなと思います。日本や韓国についての新たな発見もあつて楽しいですが、何より彼が日本で経験したことを楽しそうに話している姿を見ると、やっていてよかったです。

ラーニング・アシスタント活動報告

日本語学習科目(レギュラープレ1A)

ラーニング・アシスタント(LA)
西村 美季さん(教育学部)

私は、日本語を基礎から学ぶ留学生のための「レギュラープレ1A」という授業でLAをしています。業務内容は、テキストの例文やフレーズを自分のことになってはめて実際に会話する練習の補助や、身近な質問に答えるというものです。
私にとってこの授業は、留学生と交流できる貴重な場であり、また自身の学びへの意識を高めることのできる場でもあります。留学生は本当に努力家で、発音を繰り返し練習し、会話を自分で使えるようにしています。オリジナルのノートを作成する姿や、日本の知識の豊富さに「私自身も努力しなければ」と刺激を受けます。私が一番驚いたことは、毎時間の先生への質問の豊富さです。こんなに質問が生まれるのは、勉強に絶えず問いや疑問をもち解決しようとする向上心の表れだと感じます。留学生が楽しく使える日本語会話を学べるよう、一生懸命貢献したいと思います。



日本文化フィールドトリップ報告

11月26日に、「日本文化」クラスを履修している交換学生30名が、京都フィールドトリップへ行きました。日本文化や食文化を学ぶことが目的です。
デパ地下で食べ物コーナーを見学し、一番高いおせち料理の値段が20万円を超えていることにびっくり! 錦天満宮では、試験でいい点がもらえるようにと牛の像を一生懸命なでている学生や、からくり人形が動くおみくじに興奮している学生がいました。錦市場や伏見稲荷はとも混雑していましたが、グループごとに楽しんでいました。

最後はフィールドトリップのメインの目的である、和菓子作り体験です。日本文化の授業で、和菓子で大切なことは季節であることや、京都の和菓子は3回楽しむ(①目、②耳、③口で楽しむ)ことを学んで、体験します。簡単そうに見える和菓子。ベンジャミンさんは「和菓子を作るのができて、幸せでした」と感想を述べていました。



ヒルマー エリック マサイアスさん(左)と
ロゼック ベンジャミン アレクサンダーさん(右)
(アイルランド ダブリン・シティ大学からの交換学生)